

2月12日（金）

久しぶりに、統（すえ）神社の境内にある稲荷神社の中に入りました。このお社は他の境内社と違って、覆屋（おおいや）と呼ぶ建物の中にお社があります。屋内に蛍光灯がないので薄暗く、昼でも薄気味悪いところです。

このお稲荷さんはスゴイ神様です。この稲荷神社は江戸時代末期に、五條代官所（現在の市役所のある所）にまつられていました。文久3年（1863年）8月17日の夜、天誅組が五條代官所を襲撃し、代官の首をはねたのち、火を放ちました。そのため代官所は全焼したのですが、なんと、このお稲荷さんのお社は全く損傷せずに残っていたのです。その後、統神社に移設してまつったことが、代官所付近に住んでいた高橋直吉という人が書いた「天寿録」に記されています。お稲荷さんの名前は花高稲荷とも記録されています。

今日、その確認にいくと、花高稲荷の文字がありました。さらに、お社の裏に行くと、社殿の背板に何やら文字が！ 以前にもお社の背面に入ったことはあるのですが、こんなところに文字が書かれているとは、今日初めて知りました。薄暗いのでフラッシュを焚いて写真に撮りました。帰ってからパソコンで画面を大きくして見ましたが、江戸のくずし字は読めません。かろうじて、「寄附」という文字と年号が読めました。「嘉永四年（1851）二月初午」とあります。この日に社殿を新しく建てたのでしょうか。寄付をした人たちの名前のようにも思えるし、寄付した物の名前が書かれているのかなとも思います。何が書かれているのかは専門家に任せるしかありません。

少なくとも、天誅組に襲われる12年前にお祭りされたことは確かなようです。どんなことが書かれているのか分かれば報告したいと思います。